



長野県労働組合連合会（県労連）
長野市県町593 Rinks593 3 F TEL026-217-9071 Fax026-217-9073
✉ krn@mx2.avis.ne.jp http://kenrouren.assrv.com/

23 秋季年末闘争 統一行動日



長野県春闘共闘委員会と長野地区春闘共闘委員会は9日、2023年秋闘全国統一行動として、長野駅前で宣伝行動を実施しました。宣伝には6組織から12人が参加し、物価高騰から暮らしを守るための大幅賃上げや、大軍拡のための増税反対、教育現場の実態についての訴えを行い、民間の賃上げが公務の賃上げにもつながるとして、公務・民間一体で秋闘にとりくむ決意が語られました。

当日は、全国各地でも労働組合がストライキや宣伝行動、退勤時間調査や学習会などを実施し、要求実現をめざして、さまざまな行動にとりくみました。

松本では、地区労連が松本駅前で宣伝行動を行いました。非正規差別を無くし、一時金をパートやアルバイトにも支給を！組合をつかって実現しようとして訴えました。同時にイスラエルの集団殺戮であるガザ攻撃を中止せよ！パレスチナ紛争に対する訴えもしました。高教組3人、年金者・医労連・一般労組の7人でチラシも50セット配布。医労連から早朝スト行動や一時金交渉の報告もありました。教え子もチラシを受け取り会話となりました。

冬期一時金交渉で **3.8ヶ月・102万円**の回答 JMITU前田製作所支部

10月7日のJMITUの回答指定日などに示された回答は、総じて物価高騰から暮らしを守れる回答ではありません。そのなかでも、前田製作所支部は、1027,000円(3.8ヶ月)の回答を引き出しています。

JMITU長野地本は、今回の回答のバラツキは、会社業績の差というより、労働者の暮らしを守り切る経営責任を果たすための努力の差と分析しています。一時金

は、経営者の言う「賞与」=利益の分け前を与えられるものではありません。労働者は毎日稼ぎ出していますが、月次賃金によってもらいそこなった分、別の言い方をすれば、経営者に貸してある分を返してもらっただけ、賃金の後払いです。前田製作所支部に続き高額回答を目指していきましょう。

JMITU長野地本 一時金回答 (10/7)	回答	
	金額(円)	月数(ヶ月)
前田製作所	1,027,000	3.8
長野ダイハツモーターズ 正社員		2.5
〃 非正規		0.75
日酸TANAKA	663,848	2.2
カネテック	560,000	1.899
マグネエース	490,000	1.8745
前田鉄工所	283,920	1.3



医労連では、松本地区の中信民医労では8:45からの早朝ストを実施。冬の一時金は低額回答で再要求しようと決意。地区労連も支援に駆け付けました。

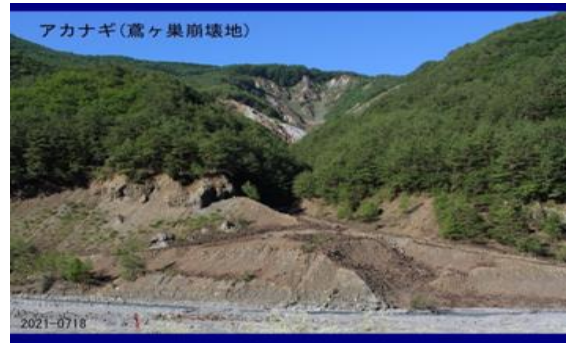
長野地区では長野地域民医労が労使共同で宣伝行動を実施。医療・介護・福祉の充実を訴えました。



長野県労働組合連合会（県労連）

長野市県町593 Rinks593 3 F TEL026-217-9071 Fax026-217-9073

✉ krn@mx2.avis.ne.jp http://kenrouren.assrv.com/



リニア新幹線問題 県民シンポジウム

11月15日、リニア問題についてのシンポジウムが、明るい県政をつくる県民の会主催で開催されました。高校教育会館を主会場に、27か所をオンラインでつなぎ、飯伊地区ではサテライト会場が設定されました。6月7日・8日に飯田下伊那で静岡・長野の視察・交流が行われ、今回のシンポジウムにつながりました。

4人のシンポジストからの報告がありました。まず、茂原県民の会事務局長からリニア新幹線の長野県内の計画の概要説明があり、工事の全体像、進捗状況、具体的な工法などの理解がすすみました。続いて、「飯田リニアを考える会」の春日昌夫さんから工事の実態について、多くの画像を用いて報告されました。すでに工事がすすんでいる状況や移転問題など、直面している地域だからこそその貴重な報告でした。

その後、会場においでいただいた「リニア新幹線を考える静岡県民ネット」の酒井政男さんから、静岡県の実況の報告がありました。リニア工事差し止め訴訟の恐ろしさや、川勝知事へのバッシングに対抗し関係6団体が知事と懇談・協議し、川勝平太「がんばれキャンペーン」に取り組んでいることなどが語られました。最後に日本共産党長野県議会議員の藤岡義英さんから、長野県政の課題が報告され、残土・水資源・交通の集中・労災事故の課題について浮き彫りになりました。

質疑応答では、経済効果など活発な論議が深まりました。終了後、「ここまでの内容で学習が深められる機会はない。貴重な学習の場だった。」「もっと大勢のみなさんに聞いてもらいたい内容だった。」等の感想が寄せられました。

過労死シンポジウム開催



過労死について考えるシンポジウムが「過労死等防止啓発月間」に合わせて、2023年11月1日、長野県長野市JAビルにて開催されました（例年、いの健長野センター（事務局：県労連）と労働局（受託事業者）で運営されています）。およそ65人が集まりました。

基調講演は、「労働と健康ー17万件のメール相談から学ぶー」と題して、（独法）労働者健康安全機構 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長 山本晴義氏から講演頂きました。山本医師は、「メンタル不調予防はセルフケアによるストレス対策が大切。1日15分の運動、早寝早起きをし、朝食をとるライフスタイルへ変更し、ストレス一日決算主義の生活を行うことが大切。また、『メンタルろうさい』や『こころの耳』を活用し日頃から学習し、相談窓口を活用することを呼びかけられました。

取組事例報告では、長野県初の独立系ソフトウェア開発企業の「システックス」様より、“健康は経営課題である”と健康経営への取り組みについてお話いただきました。

続いて、長時間労働、過重労働で4年前に38歳で自死し労災と認められた男性の妻である西尾さんより講演を行いました。生前の夫の様子や、二人の娘の様子、過労自死遺族となった自分の思いを語っていただき、「同じような苦しい思いをする人が増えないでほしい。」「過労死・過労自死は誰にでも起こりうることを忘れないでほしい」と訴えられました。